

2

第2章 平塚市における生物多様性 の現状と課題

1. 市域の概要
2. 平塚市の自然環境
3. 生物多様性の保全上の課題



1.市域の概要

平塚市は、神奈川県南部の中央に位置し、南側は相模湾に面しています。東方は相模川を隔てて茅ヶ崎市・寒川町に、西方は大磯町・二宮町・中井町に隣接し、北方は厚木市・伊勢原市・秦野市に続いています。

市内の地形は、相模湾に面した海岸線に形成された砂州、砂丘地帯、相模川と金目川の流域に発達した沖積平野、市西部の丘陵地などの洪積台地に大別されます。相模沖積平野の沖積層の厚さは、相模川河口付近で約 90m、東名高速道路付近で約 55mであり、上流に行くにしたがって薄くなります。

この沖積層は下位から、基底礫層、下部砂礫・泥層、中部砂礫層、上部泥・砂層、頂部泥・砂礫層に区分されています。

気候区分では、冬は暖かく夏は涼しい太平洋側気候に属しています。平塚市の年降水量(合計)2012~2021年の平均値は 1,574.6 mmです。年平均気温 16.3°C、月別平均最高気温 27.5°C、月別平均最低気温 5.6°Cと年較差が少なく温暖多雨と海洋性気候の特徴があります(平塚市環境保全課「大気常時監視測定データ」より)。

市内には自然植生がほとんどなく、大部分が宅地や耕作地として利用されていますが、環境省が選定した「生物多様性保全上重要な里地里山」である西部丘陵地域や、北部台地に二次林や植林が見られます。

平塚市の位置



2. 平塚市の自然環境

(1) 自然環境 調査

市内に残されている貴重な生物多様性を保全するためには、私たちを取り巻く環境の中で、どのような生きものが生息しているのか、その現状を把握する必要があります。

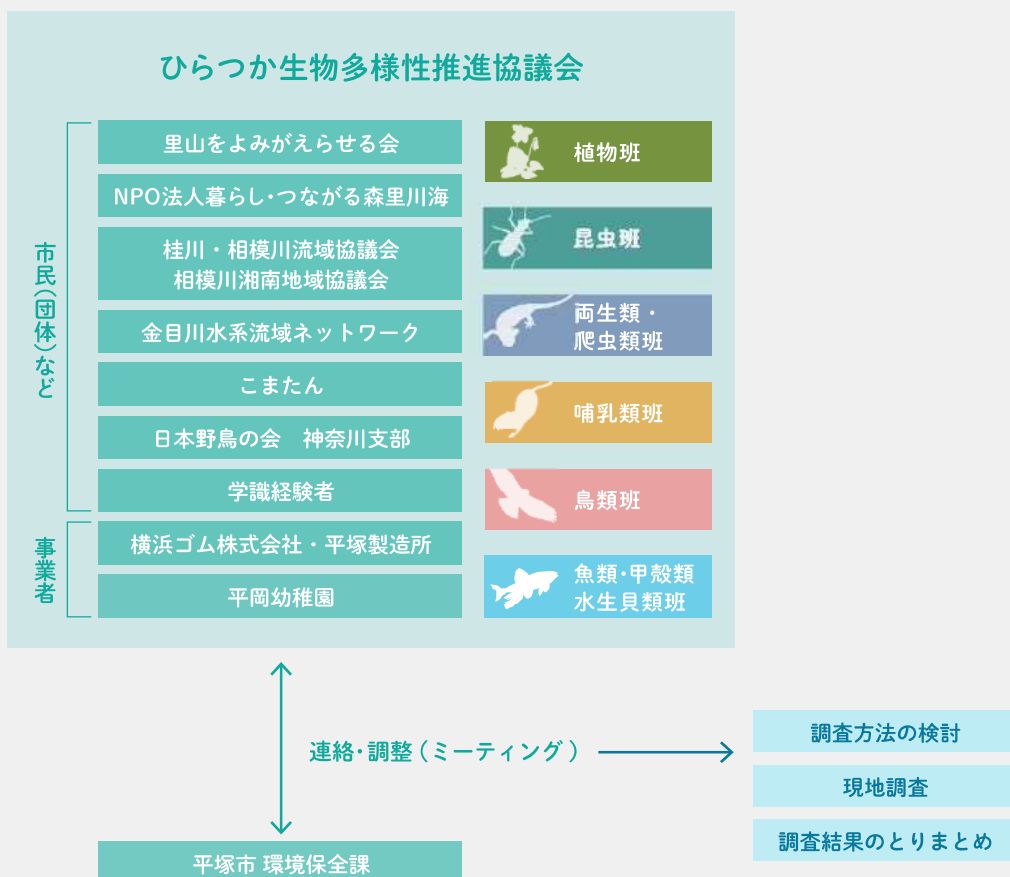
そのため、2019(令和元)年から2021(令和3)年にかけて市民団体「ひらつか生物多様性推進協議会」との協働事業で自然環境調査を実施しました。

column 01

ひらつか生物多様性推進協議会

調査を実施した、「ひらつか生物多様性推進協議会」は、生物や自然環境に対する専門知識があり、市内の里山や河川、沿岸で長年活動を続けている「市民」「事業者」等によって、平成30年に結成されました。

調査だけでなく、自然観察会やパネル展等の普及啓発にも取り組んでいます。

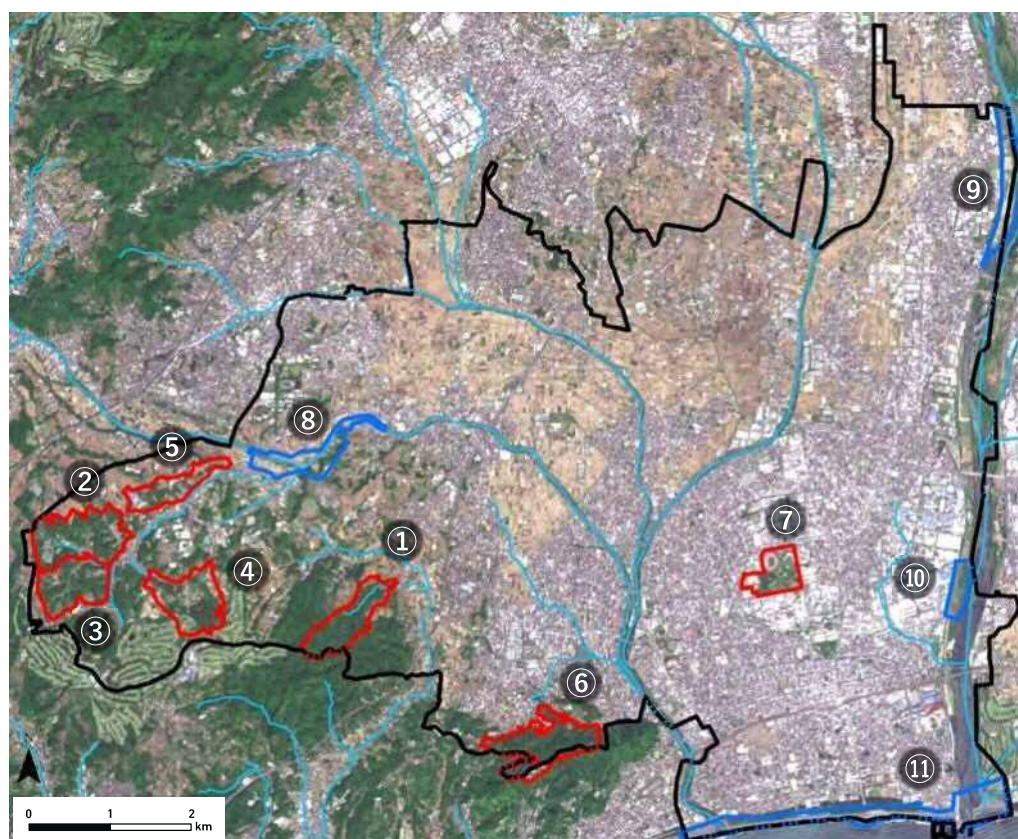


自然環境調査は、市内に点在する良好な環境が残されている里地里山(6箇所)、都市部においてまとまった緑地が存在する公園(1箇所)、市内を流れる河川(3箇所)、特徴的な環境タイプが見られる海岸(1箇所)を選定し実施しました。また、一部のグループでは、水域においてオプション地点での調査を実施しました。

調査エリア一覧

陸域(里山里地)			水域(河川・海岸)		
番号	調査エリア	略称	番号	調査エリア	略称
①	上吉沢地区	吉沢	⑧	金目川地区	金目川
②	土屋霊園周辺	土屋霊園	⑨	相模川(寒川取水堰周辺)	相模川・取水堰
③	愛宕裏地区	愛宕裏	⑩	相模川(馬入水辺の楽校周辺)	相模川・馬入
④	びわ青少年の家周辺	琵琶	⑪	海岸地区	海岸
⑤	土屋里山体験フィールド周辺	里山			
⑥	高麗山公園地区	高麗山			
⑦	総合公園	総合公園			

調査エリア位置図



(2)
各調査エリア
の概要

① 上吉沢地区

上吉沢地区は、平塚市西部に位置し、南側は大磯町に隣接しています。調査エリアの面積は約 45.9ha で、葛川水系の不動川支流の宮下川とその集水域にあたります。

調査エリア西端は、市内の最高地点の標高約 195m であり、大磯町の鷹取山の稜線へとつながり、まとまりのある樹林地が残されています。調査エリア北側の尾根道は、菜の花畑が広がる開放的な環境で、雄大な大山を望む景勝地となっています。



② 土屋霊園周辺

土屋霊園周辺は、平塚市西端に位置し、西側は中井町に隣接しています。調査エリアの面積は約 66.6ha で、金目川水系の座禅側流域の一つで、複数の谷戸が存在します。

調査エリアの奥の谷戸低地は霊園として利用されていますが、調査エリアの中央部に位置する駒ヶ滝の谷戸には、谷戸田と多様性の高い斜面林が残されています。丘陵の頂部は標高 130m 前後で、遠藤原と呼ばれる北側の台地には、畑地が広がり、丹沢山地を眺望する景観にも優れた場所です。



③ 愛宕裏地区

愛宕裏地区は、平塚市西部に位置し、西側は中井町に、北側は②土屋霊園にそれぞれ隣接しています。調査エリアの面積は約 48.4ha で、②土屋霊園と同様に、金目川水系の座禅川源流域の一つです。

調査エリアの中央部には、北東方向に開いた谷戸があり、谷戸の奥では谷底上の形状が入り組んだ、複雑な地形となっています。エリア東側には標高 115m の愛宕山があり、一部は愛宕山公園として整備されています。



④ びわ青少年の家周辺

びわ青少年の家周辺は、平塚市西部に位置し、金目川水系の座禅川支流の丘陵地です。調査エリアの面積は約 53.1ha です。

調査エリア内で環境が 2 分しており、西側の流域ではほとんどが水田や畑地で占められているのに対し、北東側の流域では樹林、農地、集落がモザイク状に組み合わさった土地利用が残されており、良好な里山環境となっています。びわ青少年の家の周辺には、まとまった樹林地があり、野外活動や散策などを通じて、里山の自然とふれあうことができます。



⑤ 土屋里山体験フィールド周辺

土屋里山体験フィールド周辺は、平塚市西部に位置し、金目川水系の座禅川左岸の丘陵地で、面積は約 32.0ha です。

調査エリアの南西側にある谷戸には、水田や素掘りの水路、草地、雑木林等の昔ながらの里山環境が残されており、土屋里山体験フィールドとして活用されています。ここでは、市民活動として、伝統的な里山の維持管理が行われています。



⑥ 高麗山公園地区

湘南平を含む高麗山公園は、平塚市と大磯町にまたがる公園で、調査エリアはそのうち、平塚市側の公園域とその周辺緑地等の一部で、面積は約 61.0ha です。調査エリアのほとんどが樹林地で占められ、標高 180.9m の浅間山から標高 168m の高麗山(大磯町)にかけての稜線とその斜面地には、常緑広葉樹を主体とする樹林帯が見られます。園内には複数のハイキングコースが整備され、多くの種類の植物、野鳥などを観察することができます。



⑦ 総合公園

総合公園は、平塚市中央部に位置する面積約 29.5ha の都市公園です。園内には多数の樹木が植栽されており、南側の一画には、人の立ち入りが制限された「野鳥の森」があり、中央の池ではコガモが越冬するほか、時にはカワセミやアオサギの姿も見られます。市街地にありながら、野鳥や昆虫など、身近な生きものを気軽に観察することができます。



⑧ 金目川地区

金目川地区は、平塚市北西部に位置し、金目川中流の土屋橋から観音橋までの川と河川敷などで面積は約 37.7ha です。

金目川は調査エリア内で蛇行しながら流れており、蛇行点に淵が見られる以外は、全体的に流れは浅く、河原には小さな岩や石が目立ちます。左岸には水田が広がり集落が点在し、右岸側の下流では河岸段丘沿いに樹林が見られます。



⑨ 相模川（寒川取水堰周辺）

調査エリアは、平塚市北東部に位置し、北側は厚木市と、東側は相模川をはさんで寒川町とそれぞれ隣接しています。河口からの距離は約7~8.5 kmの範囲にあたり、面積は約35.8haで、調査エリアの下流端には寒川取水堰が設置され、県営水道などの取水が行われています。

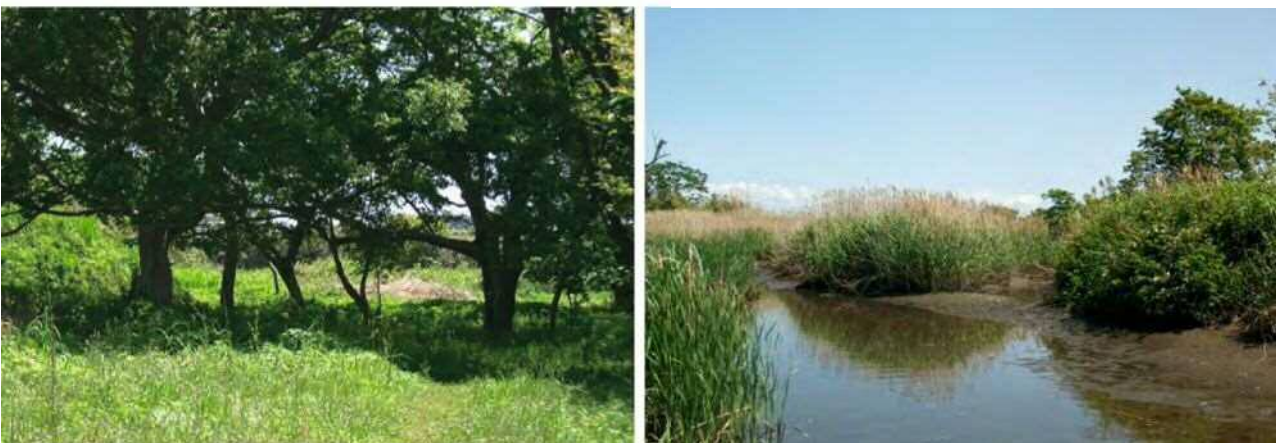
堰付近は四季を通じて野鳥が多く、良好な観察地となっているほか、大神から田村にかけての河川敷に広がる草地はさまざまな昆虫の生息地となっています。



⑩ 相模川（馬入水辺の楽校周辺）

調査エリアは、平塚市東部に位置し、東側の一部は相模川をはさんで茅ヶ崎市に隣接する相模川右岸の堤防敷、高水敷及び低水路の一部です。河口からの距離が約2.8~3.2 kmの範囲にあたり、面積は約14.6haです。

川の本流だけでなく、「ワンド」と呼ばれる川とつながっている池のようなよどみが見られ、水生・湿地性生物の生息・生育場所となっています。



⑪ 海岸地区

平塚海岸は、平塚市南部に位置し、相模湾に面した東西約 4km の湾岸部で、面積は約 82.3ha です。

調査エリアの東端と西端には、それぞれ相模川と金目川の河口があり、海岸線の多くは砂丘海岸で、陸側にはクロマツを主とする湘南海岸砂防林が設けられています。



(3)
オプション調査
地点の概要

植物、鳥類、魚類・甲殻類・水生貝類は、水域調査でオプション調査地点を設けました。
植物のオプション調査地点は、過去の調査で指標種が確認されていたことと、指標種ではないが、水田で見られる植物が他の地域の水田より多く確認されているため選びました。

魚類では、過去に調査が実施されていた地点や、観察会が開催された場所を選びました。

鳥類では、相模川や金目川、渋田川、鈴川の河口、中流、上流の異なる環境が把握できる場所を選びました。また、水生の生きものにとって重要な環境である、水田や用水路でも調査を実施しました。

オプション調査地点一覧

植物オプション地点			魚類・甲殻類・水生貝類オプション地点		
番号	調査エリア	略称	番号	調査エリア	略称
①	北金目水田	北金目	①	金目川・高麗大橋	高麗大橋
			②	座禅川・脇橋	脇橋
			③	渋田川・鷹匠橋	鷹匠橋
			④	南金目・用水路・田んぼ	南金目
			⑤	板戸川・前橋	前橋
			⑥	鈴川・大正堰	大正堰
			⑦	北豊田・用水路・田んぼ	北豊田

鳥類オプション地点		
番号	調査エリア	略称
①	金目川河口	金目川河口
②	金目川・花水橋周辺	花水橋
③	鈴川・立堀親水公園周辺	立堀親水公園
④	鈴川・岡崎	岡崎
⑤	渋田川・鷹匠橋周辺	鷹匠橋
⑥	北豊田	北豊田

オプション調査地点位置図



- 植物調査エリア
- 魚類調査エリア
- 鳥類調査エリア



岡崎の鈴川大正堰



北金目の水田



花水橋周辺

(4)
調査対象

調査は、次の6つのグループで実施しました。

 <p>植物 指標種：49種</p>	 <p>昆虫 指標種：52種</p>
 <p>哺乳類 指標種：カヤネズミ</p>	 <p>両生類・爬虫類 指標種：13種</p>
 <p>鳥類 全種</p>	 <p>魚類・甲殻類・水生貝類 全種</p>

植物、昆虫、哺乳類、両生類・爬虫類については、あらかじめ選定した指標種を対象に、鳥類、魚類については、指標種を設定せず全種を対象に調査を行いました。甲殻類と水生貝類は、魚類調査の際に採集、確認された種を記録しました。

指標種は、平塚市の豊かな自然環境を評価するために、樹林・草地・水辺・海岸の4つの環境タイプを設定し、各環境タイプを代表する種をそれぞれ選定しました。

column
02

環境を知る目安 指標種

特定の環境条件を生息・生育に必要とする生きものを、自然環境調査の指標種として選定しました。

その生きものがあるかどうか、その場所に良好な自然環境が残されているか否かを判断する目安となるのです。

例えば、写真のクロマメゾウムシ(海岸指標種)は、海浜植物のハマエンドウを食草としており、この昆虫が生息しているということは、ハマエンドウが生育し、良好な砂浜環境があることを示しています。



海岸環境の指標種
「クロマメゾウムシ」

(5)
調査方法

調査は、2019(令和元)年3月から2021(令和3)年11月に行い、その期間中、季節や昼夜など条件を変えて複数回以上実施しました。

生物の確認方法は、捕獲、目視、鳴き声及び痕跡や死骸の確認とし、写真撮影や録音での確認も含みます。一部の昆虫や水中の生物については、網による採集を行いました。本調査は、調査日に確認できた生物を記録したものであり、記録されなかったことが、その動植物の存在を否定するものではありません。

column
03

生きもので異なる調査方法

調査対象の生きものがあるかどうか、調査の目的は同じですが、生きものごとにアプローチは異なります。

例えばその場を動かない植物は、生育環境や時期を考慮して、調査エリア内を歩きながら注意深く探していきます。

しかし、昆虫や両生類・爬虫類はどうでしょう。ずっと同じ場所にいるわけではありませんし、姿は見えなくても、鳴き声で確認できる種もいますし、夜にならないと活動しない種類もいます。そのため、同じ調査エリアに、昼間だけでなく夜間も含め何度も出かけていき、目を凝らし耳を澄ませながら調査を行いました。

鳥類は双眼鏡で姿を探したり、鳴き声で種を確認したりする日中の調査に加え、録音機を設置して、日の出前・夕方・深夜の鳴き声を録音し、種類を確認しました。また、魚類・甲殻類・水生貝類の調査は、調査場所の状況に合わせてタモ網、投網、カゴ網などを使い分けして行いました。

この様にさまざまな生きものの調査を実施できたのは、多くの分野の専門家が参加している「ひらつか生物多様性推進協議会」ならではの成果です。



ヘッドライトで照らしながらの
夜間の昆虫調査



タモ網に入った生きものを確認する
魚類調査班のメンバー